

よじりそ銀河の森へ

地球観測の拠点―陸別(11)

名古屋大学太陽地球環境研究所

上出 洋介 主任教授

NASA宇宙探査機の火星到着のニュースに、胸がワクワクしていることでしょう。

テレビに映し出される、比較的なだらかな表面に大きな石がころがっている写真を見て、まるで地球上の一風景と変わらない、という印象をもった人も多いことでしょう。火山活動と大洪水があった証拠も発表され、ますます身近に感じた人もいると思います。しかし一方では、索漠荒涼とした荒野のような感じを受け、生命の存在に関連して、宇宙の歴史の中での地球と火星の違いに想いを巡らせた人もいます。

地球や宇宙を対象とする研究の目ざすところは、宇宙の中での地球を知ることではないでしょうか。その研究をしているのは私たち人間ですから、結局宇宙の中で、私たち生命がどういう立場にいるのかを探っている訳です。

私たちグループの陸別での

総合観測は、大きくオゾン層観測とオーロラ/磁気嵐観測に分けられることは前に書きました。いずれのテーマも、いまの地球が太陽との微妙なバランスの上に成り立っているために生ずる現象を扱います。

太陽からのエネルギーは、気圏、水圏、地圏という領域を全部まとめた、複合系(システムといえます)の中で分配され、うまくバランスがとれているのです。私たちグループのめざしていること、研究していることを町民の皆さんに理解してもらうため、観測施設をできるだけ公開していこうと思えます。天文台の展示にも協力していきます。

以前、陸別中学校で「科学者との集い」を催したとき、多くの質問が出されました。実は、皆さんに考えていた

きたいものがいいくつかあります。○宇宙はどこまであるのですか。

○砂漠地帯にもう二度と緑は戻らないのですか。

○木星に彗星が衝突しましたが、地球は大丈夫ですか。

連載(11)



○南極や北極の水が解けると、地球はどうなるのですか。

○オーロラを研究して地球の将来にとつてどんな役に立つのですか。

○地球の自転が遅くなっていると聞きましたが、どうしてそんなことがおきるのですか。

○陸別になぜオーロラがやって来たのですか。

○陸別のオーロラはなぜカーテン状になっていないのですか。

○自分たちで陸別にオーロラをつくれないうのですか。

○オーロラは危険ではないですか。

○陸別のオーロラは、なぜ赤いのですか。

▽次号から、この欄は国立環境研究所の中根英昭氏が担当します。

